※令和４年度以降入学生用

学校番号	1003

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「最新　数学Ｃ」　（数研出版）						
副教材等	３ＲＯＵＮＤ　数学Ｃ　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

まずは授業に積極的に参加して、教科書を参考にしながら基本的内容を理解できるようにしましょう。授業では説明を聞いたり、教科書を読んだりするだけでなく、自分自身で考えたり、解いてみたりすることが大切になります。そこで生まれた疑問が数学の理解をより深めることに繋がります。間違うことを恐れずに主体的に数学に取り組んでいきましょう。

問題集は、授業内容を復習しながら取り組みましょう。答えを書くだけではなく、答えに至る過程も書くようにしてください。そうすることによって、なぜ間違えたのかを振り返ることができます。また、間違えた問題は必ずやり直しまで取り組み、理解できたかを確認しましょう。

２　学習の到達目標

ベクトルと平面上の曲線、複素数平面について
(1) 基礎的な知識や技能を習得する。
(2) 事象を数学的に考察する能力を培う。
(3) 数学のよさを認識し、それらを活用しようとする態度を身に付ける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトルと平面上の曲線、複素数平面において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、ベクトルと平面上の曲線、複素数平面における数学的な見方や考え方を身に付け、社会の事象や自ら設定した問題について解決したり考察することができる。	ベクトルと平面上の曲線、複素数平面の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	ベクトル	平面上のベクトル	a:平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解している。 b:ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見出すことができる。 c:平面図形の性質を、ベクトルを用いて表現しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察
	ベクトル	空間のベクトル	a: 空間のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解している。 b: ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、空間図形の性質を見出すことができる。 c: 空間図形の性質を、ベクトルを用いて表現しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察
2学期	複素数平面	複素数平面 複素数の和と差 複素数の極形式 ド・モアブルの定理	a:複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解している。ド・モアブルの定理について理解している。 b:複素数平面における図形の移動などと関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察できている。 c:複素数の積を複素数平面上の図形を用いて、意味を理解しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察
	式と曲線	放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動	a:放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解している。 b:放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察できている。 c:軌跡を用いて、放物線、楕円、双曲線の二次式を証明しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察

※令和４年度以降入学生用

3学期	式と曲線	曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式	a:曲線の媒介変数表示、極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることを理解している。 b:放物線、楕円、双曲線の二次式と媒介変数表示、また極方程式の関係性について捉え、考察できている。 c:媒介変数表示を用いて、サイクロイドの軌跡を表現しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度